

くまのこだより



社会福祉法人 岡山こども協会



令和5（2024）年5月1日（水）発行
赤磐市桜が丘東 6-6-704
さくらが丘保育園

『新しい時代は子どもから』

4月に新入園児を迎え、1か月が経ちました。初めての保育園生活に戸惑いがあるお子さんにも笑顔が見られるようになりました。

さて、今年度の園だよりでは、全国私立保育連盟の『新しい時代はこどもから 社会へ向けて7つのメッセージ』の中から一つずつテーマをあげて、保育の取り組みをお伝えしていきます。未来の社会を生きていくこどもたちへ私たち大人ができることを模索しながら保育を進めていきます。

日々の保育の積み重ねの先にどんなたのしみがあるのか。そのたのしみを花にたとえるならば、今はしっかり根を育て、しっかりした茎の先に花が咲くことを楽しみに大切にかかわっていきたいと思います。

土屋 勇氣

お知らせ

○園からの重要なお知らせは、登録いただいているメールアドレスに送っていますので、確認をお願いします。

○5月15日（水）は、家族参観日・引き渡し訓練を予定しています。先日、発信したマニュアルや当日の流れをよく読んで、ご参加ください。

～お詫び～5月号に掲載するとお知らせしていた、職員紹介②は、都合により、延期いたします。

わたしもいこうかな…

なにかなあ？



♪すずらんだより♪

4月後半から、5月初めにかけては、連休が増え生活が乱れがちになってしまうので生活リズムを崩さないようご注意ください。

こどもたちは様々な物に触れるため、爪の中に汚れがたまると炎症をおこし、病気になってしまうこともあるので、手洗いで落としきれない汚れは、お風呂できれいに落としましょう。

また、爪が長いとどこかにひっかけてしまったり、友だちを傷つけてしまうこともあります。お家で定期的に切ってくださいようお願いします。

看護師 伊藤 弥智子

私の好きな絵本

どちらも同じ作者の方で、そっと寄り添ってくれるようなメッセージや、かわいい絵が描かれています。読み終わったあとには心が暖かくなり、前向きになれる絵本となっています。ぜひ読んでみてください。

竹内和羅



『クラスで今！ブームのあそび①』

ゆき組』

今「投げる」ことが大好きです。ボールを出すと、大喜びでボールを手に持ち、まっすぐ前に転がしたり、手首のスナップを利かせて遠くにボールを投げたりしています。また、大人が投げると、同じように投げようと、真似をします。

昨日までうまくできなかった子が、気付くとまっすぐ投げる姿もあり、ボールあそびにも日々の成長を感じられ、それがとても面白く感じます。

今は柔らかくて軽い小さな布のボールを使い、保育室で遊んでいます。ホールや戸外など広い場所で、もう少し大きなボールを使って、ダイナミックにボールあそびができればいいなと思っています。



『クラスで今！ブームのあそび②』

ほし組』

こおりオニやおにごっこなど身体をたくさん動かして遊ぶことが大好きです。戸外で好きなあそびをする時などに「こおりオニしよう」と笑顔を見せて誘っています。

オニ決めをする際、それぞれ片足を中心に集めて「オニきめ、オニきめ、オニじゃないよね」で指を差された足の人には逃げていき、最後に残った人がオニになるのですが、必ず保育者にオニの役目がまわってきます。鬼をしたくない思いがとても伝わってきて、そこがとても可愛らしく感じています。

これからも一緒にあそびを楽しみながら、「オニ一緒にしてみる？」と誘ってみようかなと思います。



～集団あそび紹介～

『こおりオニ』



- オニを決めます。
- オニが決まったらそれ以外の人はずべて子になります。
- オニは決められた数を数えて、その間に子はオニから逃げます。
- オニが指定の数を数え終わったら、子を追いかけます。
- この時に子がオニにふられると、子はその場で凍った状態となり、動けなくなります。○動けなくなった子に対して、オニに触られていない、動ける子が触れることで、氷が解けてまた子は動けるようになります。
- すべての子を凍らせた状態にできれば、オニの勝利となり、ゲームは終了となります。

今月のテーマ『こどもの思いを受け止めましょう』

花は咲く



グループ活動でグループカラーの鯉のぼりを作りました。折り紙で作った兜をうろこに見立てて貼る作業に取り掛かった時です。折り紙を貼る方向について子どもたちから保育者に申し出がありました。「縦」と「横」とそれぞれのイメージが異なっていました。「私（保育者）はどっちもいいと思うよ。グループで話し合っただけならいいんじゃないかな」と気持ちを受け止めつつ決定権は子どもたちへ返しました。貼る場所について意見が衝突することもありましたがお互いの納得解を考え、素敵なこいのぼりができました。納得解を考えられるようになった子どもたちの姿に成長を感じました。

そら組 土屋 勇気

昨日したことや、思ったこと、感じたことを自分の言葉で伝えられるようになったほし組。話したい、聞いてもらいたい気持ちが溢れ、それぞれの子が一斉に話をする時も多々あります。どの子が何を言っているのか分からなくなってしまうこともありますが、伝えようとする姿が微笑ましいです。

子どもたちの話を聞く時、こどもの目線に合わせて話を聞き、頷いたり、共感したり、声を掛けたりするように意識しています。子ども一人ひとりの話を聞くとすると、とても時間がかかりますが、傾聴することを意識して、日々過ごしていきたいです。また、言わないけれど何かを伝えたいと思っている子にも、気づいて、声を掛けられるようにしていきたいです。

ほし組 下山 静菜

いちばんぼし





Full Moon

Half Moon

Crescent Moon



友だちとのかかわりが増えてくるとともに、いざこざも増えてきます。今つき組のこどもたちは、困った時に保育者に助けを求める姿が多くみられています。それぞれに話を聞いていくと、くいちがいが見えてきます。こどもの発する言葉を一つずつ拾いながら、じっくりと話を聞いていくこと全体の内容が見えてきます。話を整理していき、こどもたちに返すと解決の方法がみえてきます。こどもたちの成長を側で見守りながら、一人ひとりに寄り添える保育者であれたらいいなと思います。そして、こどもが自分の気持ちを抑えることなく表現できる環境をつくっていきたいです。

つき組 竹内 和羅



4月に入園したこどもたちにとって、保育園の生活は初めてのことばかり。不安がいっぱいで涙が出るのも当然のこと。

こどもたちの気持ちを受け止めながら、お父さん、お母さんの代わりにはなれないものの抱っこしたり、手をつないだり、自分の安心できる物を持っておくことで落ち着くことができることに気づきました。

自分の物を持つことで安心し、今では物を手離して過ごしている姿もみられます。

まずは、気持ちに寄り添うことで安心を獲得し、次へとつながっていくんだと思います。

にじ組 大森 航輝



にじのかけはし



新しい環境に慣れず、涙が出ることも、戸外に出ると幾分気持ちが落ち着くようです。そこで、テラスにマットを広げ、室内とテラスを自由に行き来できるようにし、好きな場所で過ごせるようにしました。

それぞれの落ち着く場所で、保育者が優しく声を掛けたり、遊びに誘いかけたりしてこどもの気持ちに寄り添うことで、次第に涙の出る子も少なくなってきました。

ある日、新入園児が泣いていると、在園児の子が、泣いている子の顔をのぞきこみ、そっと頭を撫で、傍に寄り添い慰めていました。泣いていた子も、ふっと涙の止まった瞬間でした。保育者の真似をしているのかな？と思うと、こどもたちを見守る中で、心が温まると共に、こどもの気持ちに寄り添うことや、大人の関わり方の大切さを改めて感じた場面でした。

ゆき組 土屋 裕香



おはながわらった



はなぐみの4月はこどもとの関係づくりに全力を注ぎました。安心して眠れるようにそれぞれの心地いいリズムを見つけてトントンしたり、抱っこで揺らしたり。眠いのはわかるんだけど「どうしたら安心して眠れるかな」と「わかりたい」と思いながら関わっていました。今は、一緒に過ごす中で少しずつ心の距離が近づいているのを感じます。

0歳児のこどもたちは笑ったり、泣いたり、全身で気持ちを伝えようとしています。「何を伝えようとしているのかな」とアンテナを張り、大人もこどもの気持ちに精一杯応えていきたいと思えます

はな組 玉置 七彩

新しい時代は子どもから

～子どもの今が未来を創る～

子どもの「遊び」を
守りましょう

子どもの怒りを受け止めましょう

子どもの
「自分でやりたい」を
大切にしましょう

子ども自身に
乗り越える力を
育てましょう

みんなで食べると
楽しいんです

子どもは自然が
大好きです

子ども同士の
関わりが大切です

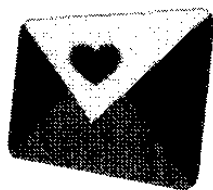
(公社)全国私立保育連盟は、未来を生きていく子どもたちのために
社会へ向けて、7つのメッセージを送ります。



立会人
全国私立保育連盟

全私保連保育運動
新しい時代は
子どもから

保護者の皆様へ 私たちが伝えたい7つのメッセージ



今回のメッセージは……

その1 子どもへの思いを 受け止めましょい

0歳からのお子様をお預かりする保育施設では、言葉が未熟な年齢でもあるために、子ども一人ひとりの状況や表情を把握しながら、ニーズや思いへの対応を行っています。

特に近年では、赤ちゃんが「泣く」という仕草にも何かを伝える意図があつて、自ら思いを伝えようとする力を既に持っていると言われていいます。また、片言の言葉を発する時期では、自分の思いを伝えようとしてもうまく伝えられなくて、ぐずったり、「いやいや」を連発することがあります。

さらに、お友だちとの関わりが増えていると、意見のぶつかり合いに出会ったり、自分の思いを調整することを求められる場面も体験します。そのため、自分の思いを理解してもらえないことが大きなストレスになるのではないかと考えられます。

これらのことから、保育者は、ていねいに子どもたち一人ひとりの話を聞き、伝えたいこ



日常の保育の中でも、子ども同士でお互いの思いを伝え合う姿を見守っています

とを整理することや、共感して思いに寄り添う言葉かけを日々行っています。

例えば……

乳児のオムツ交換の際には、「気持ち悪かったね！」「交換してスッキリしたね！」など。

幼児クラスでの子ども同士のトラブルなどでは、「○○ちゃんの思いはこうなんだねー」「○○ちゃんはこれがイヤだったんだね」など、双方の思いを認めること。

といった言葉かけを大切にしています。

一方、ご家庭では「親とわが子」という関係性から、やってあげることや失敗しないようにとの思いが先行してしまったり、保護者自身の経験や成功体験に基づいた声かけをついつい押しつけてしまいがちではないでしょうか？

子どもの声を「率直に聞く」ということは難しいと思われてしまいかもしれません。でも子どもは、自分の近くにいる存在である大人に自分のことをわかってほしいとの思いがあります。ぜひ、ご家庭でも、少し意識してお子様の声に耳を傾けてみてください。

子どもにとって、自分の思いを大人に聞いてもらえること、また、共感してもらえることだけでも、相手との信頼関係を持つことにつながります。大人も重心にかえり、目線を合わせて考えてみることで、子どもの素直でやさしい思いに気づいたり、日々成長し「考える」力をつけている姿を発見できると思います。